

課題解決型の保健室経営計画に対する養護教諭の意識と課題

Yogo teacher's consciousness and issues for problem-solving type management plan of the school health room for children's health.

利岡 美音, 池田 誠喜

TOSHIOKA Mine and IKEDA Seiki

鳴門教育大学学校教育研究紀要

第35号

Bulletin of Center for Collaboration in Community

Naruto University of Education

No.35, Feb, 2021

課題解決型の保健室経営計画に対する養護教諭の意識と課題

Yogo teacher's consciousness and issues for problem-solving type management plan of the school health room for children's health.

利岡 美音, 池田 誠喜

〒772-8502 鳴門市鳴門町高島字中島748番地 鳴門教育大学大学院
TOSHIOKA Mine and IKEDA Seiki
Naruto University of Education, Graduate School
748 Nakajima, Takashima, Naruto-cho, Naruto-shi, 772-8502, Japan

抄録：児童の健康の保持増進を進めるためには、学校における全ての教育活動で関わる必要があり、そのために児童・生徒の養護を司る養護教諭の役割は重要である。養護教諭は、保健室経営計画を作成すること、教職員と連携し学校保健の充実を図ることが求められている一方で、保健室経営計画が作成されながらも、十分に周知・活用されていないという現状も見られる。

本稿では、学校保健の充実を図るために重要な要因である保健室経営計画の作成とその活用についての現状と課題を理解するため、養護教諭の意識と課題を明らかにすることを試みた。方法として、4名の養護教諭に保健室経営計画についてインタビュー調査を実施し、グラウンデッド・セオリー・アプローチによる分析を行った。

結果、6つのカテゴリーからなる統合関連図が作成され、養護教諭の課題解決型の保健室経営計画の作成と活用に関する課題や効果が示された。

キーワード：養護教諭 学校保健 課題解決型の保健室経営計画

Abstract : In order to maintain and improve the health of children, it is necessary to be involved in all educational activities in schools. As a basic system, Yogo teacher are required to create a school health room management plan and to improve school health in cooperation with faculty and staff, while the school health room management plan is well known. The current situation is that it is not being used.

In this paper, in order to understand the current situation and issues regarding the creation and utilization of the school health room management plan, which is an important factor for improving school health, we will clarify the awareness and issues of Yogo teacher. I tried. As a method, we conducted an interview survey with four school nurses about the school health room management plan and analyzed it by the Grounded theory approach.

As a result, a related diagram consisting of 6 categories was created, and the issues and effects related to the creation and utilization of the school health room management plan of the Yogo teacher were shown.

Keywords : Yogo teacher, school health, problem-solving type school health room management plan

I. はじめに

近年、児童・生徒を取り巻く社会の変化を背景に、生活習慣の乱れ、いじめ・不登校などのメンタルヘルスの問題、アレルギー疾患や感染症、薬物乱用、ゲームやインターネット依存等、心身両面に関わる様々な健康課題が生じている。このような複雑化・多様化・深刻化している児童・生徒の健康課題に対して、単に個人的な課題として捉えるのではなく、学校・家庭・地域社会が連携し、社会全体で児童・生徒の健康課題に取り組む必要があり、学校においては、児童・生徒の心身の健康の保持

増進を目指す学校保健の推進が重要となってくる。

こうした背景を受け、学校保健の中核的な存在である養護教諭の職務に対するニーズも増え、従来の救急処置や疾病予防、健康教育の他、校内外との連携やコーディネーターとしての役割、健康課題を抱える児童・生徒への組織的な対応のための支援体制づくり、医療的配慮を必要とする児童・生徒への対応など、その内容は幅広く複雑化してきている。

このような状況は、養護教諭が置かれている立場や環境により差はあるものの、少なからず養護教諭の職務や組織活動の困難さに影響を及ぼしている。

今後、如何にして計画的・効果的に学校保健の充実を推進していくかが重要となってくる。

1. 学校保健の充実と養護教諭の在り方

学校保健とは、日本養護教諭教育学会（2012）¹⁾では「児童生徒等及び職員の健康を保持増進するために、学校において行われる保健活動の総称である。学校保健の領域は、保健教育と保健管理に分けられ、これらを円滑に進めるために保健組織活動がある」と定義されている。また、中央教育審議会答申（2008）²⁾では、学校保健の充実・推進に対して、「学校保健に関する学校内の体制の充実」と「学校、家庭、地域社会の連携の推進」を示し、具体的な方策について述べているとともに、学校保健の充実における養護教諭に求められる役割についても示されている。

中央教育審議会答申（2008）を受け、財団法人日本学校保健会（2012）「学校保健の課題とその対応－養護教諭の職務等に関する調査結果から－」³⁾では、養護教諭に求められる役割を次のようにまとめている。

- ①学校内及び地域の医療機関等との連携を推進する上でコーディネーターの役割
- ②養護教諭を中心として関係教職員等と連携した組織的な健康相談、健康観察、保健指導の実施
- ③学校保健センター的役割を果たしている保健室経営の実施
- ④いじめや児童虐待など児童生徒の心身の健康問題の早期発見、早期対応
- ⑤学級活動における保健指導をはじめ、チーム・ティーチングや兼職発令による保健学習などへの積極的な授業参画と実施
- ⑥健康・安全にかかわる危機管理への対応

以上を踏まえると、学校保健の充実を学校内外で行っていくためには、学校保健の中核的役割を果たす養護教諭が学校保健活動のセンター的役割を果たしている保健室の経営の充実を図り、校内のみならず保護者や地域、関係機関と連携し、組織的、効果的に学校保健を推進していく必要がある。そのためには、校内の学校保健活動の指針ともいえる、課題解決型の保健室経営計画の作成はもとより、その内容について学校・家庭・地域に周知し、共通理解を図り、計画に基づいた実践を行っていくことが重要である。

2. 課題解決型の保健室経営計画

保健室経営計画とは、「保健室経営計画作成の手引平成26年度改訂」（2014）⁴⁾では「学校の教育目標及び学校保健目標などを受け、その具現化を図るために、保健室の経営において達成されるべき目標を立て、計画的・組織的に運営するために作成される計画である」と定義

され、作成の必要性が示されている。さらに「保健室経営計画作成の手引平成26年度改訂」（2014）では、より児童の健康課題に沿った内容である課題解決型の保健室経営計画が例示された。しかしながら、課題解決型の保健室経営計画については、明確な内容の定義がなされていないのが現状である。そこで、先行研究および「保健室経営計画作成の手引平成26年度改訂」の内容の比較から課題解決型の保健室経営計画についての捉え方を考えていく。

久米（2017）⁵⁾は課題解決型の保健室経営計画を「保健室経営計画作成の手引」から「学校評価に準拠したものとし、養護教諭が児童生徒の健全育成のための活動を学校全体で組織的に展開するために重要な計画である」と捉えている。また、小柳（2016）⁶⁾は「課題解決型の保健室経営計画を、児童生徒の健康課題と解決するための経営計画であり、日本学校保健会の『保健室経営計画の作成の手引き』を枠組みとする」と定義し、さらに小柳（2019）⁷⁾は「新たな保健室経営計画は、マネジメントの手法を用いて組織的計画的な保健室の運営を目指す画期的なもの」としている。

「保健室経営計画作成の手引」平成26年度改訂の比較から、改訂版には学校経営方針の記入、評価については経営目標ごとに総合評価、自己評価・他者評価に到達度、さらに他者評価については実施時期が追加された。その他、経営目標や具体的な方策がより一層具体的に記載されている。これらのことから、保健室経営が学校経営と綿密な関係であること、経営目標や方策に対し、より具体的に示すことで児童・生徒の健康課題や取組の明確化を促していること、評価を細分化することで、良い点や改善点の明確化がされ次年度に生かされる計画となっていることが分かる。

以上のことから本稿では、課題解決型の保健室経営計画を「学校の教育目標及び学校保健目標などを受け、その具現化を図るために、保健室の経営において達成されるべき目標や方策を、焦点化・具体化し児童生徒の健康課題解決に沿って立て、計画的・組織的に運営するために作成される計画である」とする。さらに、「この課題解決型の保健室経営計画が教育活動全体を通して学校保健活動を行う際の指針としての役割も有している」と捉えることとする。

課題解決型の保健室経営計画については、その効果や重要性について、齋木（2010）⁸⁾は「保健室経営計画に生徒の実態を踏まえた具体的な取組みの項目を立て、それを実践していくことで、生徒の健康課題の理解と養護教諭の職務について校内職員の理解を得られると考えられる」と記している。また、采女（2011）⁹⁾は、保健室経営計画の効果として、健康課題を教職員間で共有できる、教職員へ周知することで理解や協力が得られやすく

なると述べており、健康課題への理解や学校内外での協力を得るためには保健室経営計画が必要であることを示している。

しかし、財団法人日本学校保健会（2012）「学校保健の課題とその対応—養護教諭の職務等に関する調査—」¹⁰⁾によると保健室経営計画の現状と活用できていない状況が下記のように報告されている。

- ①全体で27%の養護教諭が、保健室経営計画を作成していなかった。
- ②全体で33%の養護教諭が、保健室経営計画を作成していても評価計画を作成していなかった。
- ③全体で56%の養護教諭が、保健室経営計画の他者評価に取り組んでいなかった。
- ④全体で24%の養護教諭が、保健室経営計画を作成していても、全職員へ周知していなかった。

また、大野（2016）¹¹⁾は保健室経営の研究から「養護教諭の保健室経営計画は計画立案されるが、職員会議で周知し評価することは全体では不十分であり、養護教諭は学校に一人勤務が多く、経営計画の必要性を曖昧にしてしまうことに陥りやすいが、いかに実践するか計画の宣言なしに学校保健運営する危険を感じなければならない」と考察している。

以上、述べたように、学校保健の充実において重要な

役割を持つ課題解決型の保健室経営計画に対して、養護教諭は作成の必要性を感じ、立案している一方で、教職員等への周知や評価は十分にされず、活用されていないといった課題が推察された。

II. 研究の目的

本研究は、学校保健の充実において重要な課題解決型の保健室経営計画の作成と活用の現状についてインタビュー調査を行い、養護教諭の意識と認識を整理することにより、課題解決型の保健室経営計画の作成及び活用に寄与する指針を示すことを目的とした。

III. 研究方法・結果・考察

1. 研究方法

課題解決型の保健室経営計画について、実態把握を行うため、県内小・中学校に勤務している4名の養護教諭を対象に、「保健室経営計画」について自身や勤務校での取組内容についてインタビュー調査を行い、グラウンデッド・セオリー・アプローチを使い、分析を行った。

1) 対象

表1 インタビュー分析のデータ・プロパティ・ディメンション・ラベル名

《作成に対するモチベーション》

データ	プロパティ	ディメンション	ラベル名
あれ作られて言われたらすぐ作れるし、埋めれるし、3月やって書けるし。	・あれの意味 ・作れるもの ・作れる早さ ・埋めれるもの ・時期 ・書けるもの	・保健室経営計画 ・保健室経営計画 ・早い【すぐ】 ・保健室経営計画の項目 ・3月 ・評価	作成に対するモチベーションの低さ
あれ、今、出せえとは別になってないわけで、校長に出すとか、最後見てもらうとか。	・あれの意味 ・時期 ・出すとはなっていないもの ・誰に出すことになっていないこと ・最後にしてもらうことになっていないこと	・保健室経営計画 ・今 ・保健室経営計画 ・校長 ・校長に見てもらう	作成に対するモチベーションの低さ
じゃあさあしろと言われたら、するけど…別に書けるけど、みたいな。	・言われること ・言われたらすること ・言われてすることに対する思い	・しろ（保健室経営計画を作れ） ・書く（保健室経営計画を作る） ・モチベーションが低い【別に書けるけど】	作成に対するモチベーションの低さ
別に書けるよ、全部。	・書けるもの ・かける度合 ・書けることに対する考え	・保健室経営計画 ・全部 ・いいイメージではない【別に】	作成に対するモチベーションの低さ
ほなけど、別に書けあって言われてないし、ホンマに、ほの、実態がどうで、これをやりますとか、いうんがあるわけで、結局あれって。	・ほなけどの意味 ・言われていないもの ・あるもの	・切片に対する否定 ・保健室経営計画を書けえ ・実態がどうで、これをやります（別の紙）とか	作成に対するモチベーションの低さ
ただ、絶対しろとはなっていない。作ってますかって聞かれるよな？	・絶対しろとなっていないもの ・聞かれること	・保健室経営計画を作ること（法的根拠） ・作っていますか？	作成に対するモチベーションの低さ
作っとなんは、作っとうけど。…どっか出すとかではないんよな。校長が見るん？見るんだっけ？他者評価書いて、自己評価して、終わり。	・作っているもの ・出すもの ・校長が見るん？見るんだっけ？の意味 ・書くこと	・保健室経営計画 ・保健室経営計画 ・校長に見せることへの事実確認 ・自己評価	作成に対するモチベーションの低さ
手間なんな。学校目標からぜんぶ入れていかなあかんし。	・手間な物 ・手間な理由	・保健室経営計画の作成 ・学校目標からぜんぶ入れていかなあかん	手間と感ずる作成
あのね、I（町名）の時に一緒に作ったというか、形があって、それを塗り替えたというか…したので。持っちは無いんですが。	・Iとは ・Iの時の意味 ・一緒に作ったもの ・形があるもの ・塗り替えたもの ・持っていないの意味 ・持っていないもの	・場所（町名） ・I（町名）で勤務していた時 ・保健室経営計画 ・保健室経営計画 ・Iの時に一緒に作った（保健室経営計画）もの ・今、学校にはない ・Iの時に一緒に作って塗り替えた保健室経営計画	作成に対するモチベーションの低さ

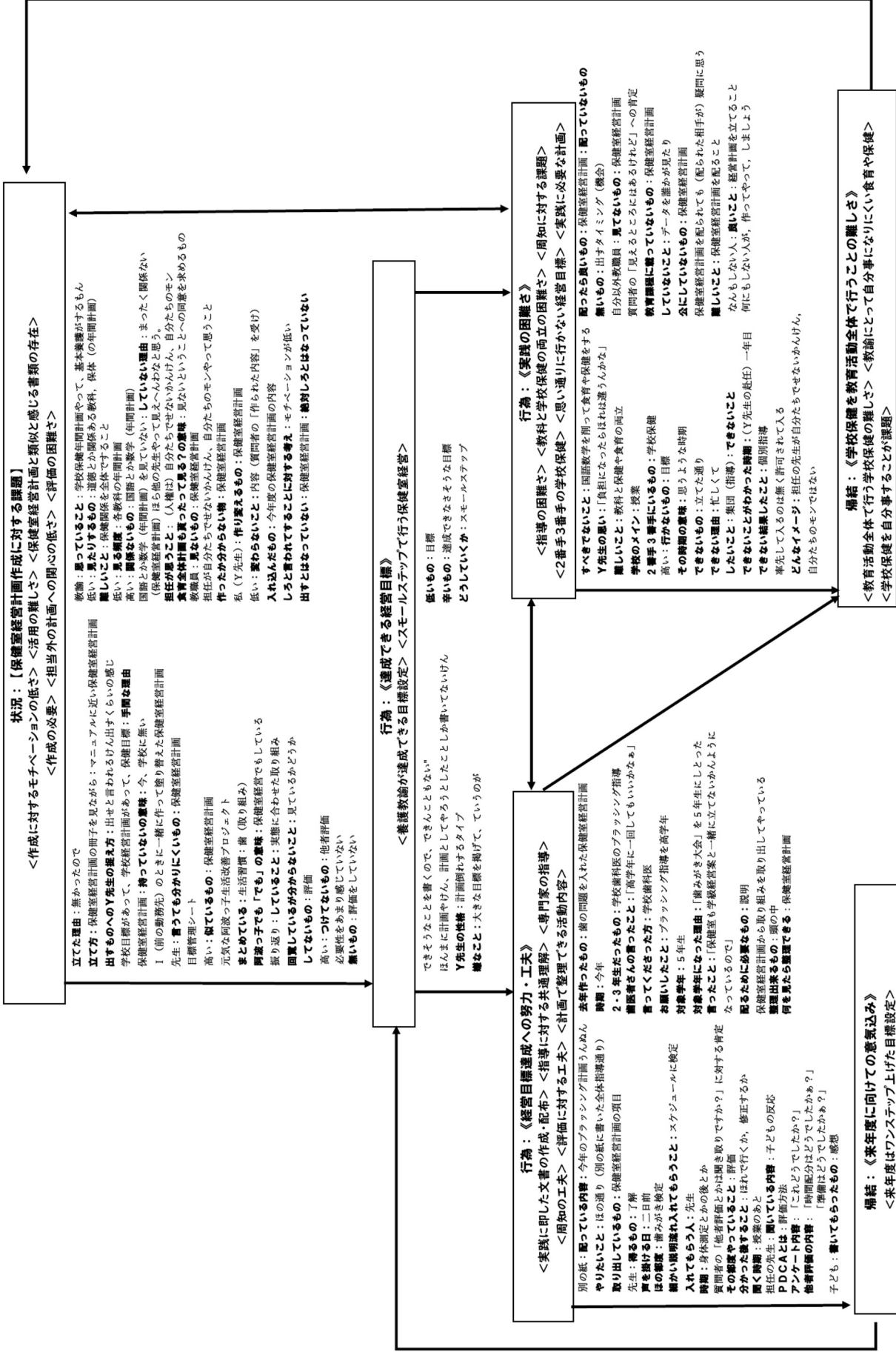


図1 課題解決型の保健経営計画作成に関する課題のカテゴリー統合関連図

D県公立小・中学校に勤務している養護教諭4名

2) 時期

令和元年10月

3) 調査方法

保健室経営計画について、計画内容、効果・課題を主たる質問として、半構造化面接によるインタビュー調査を実施。

4) リサーチ・クエスチョン及びインタビューガイド

質的研究において、目の前で生じている事象を全て把握することは困難である。そのため、その研究を通して、何をどこまで明らかにしたいのかを文章で表現したりリサーチ・クエスチョンが必要となる。

さらに、インタビューをするにあたっては、リサーチ・クエスチョンに沿ったインタビューガイドを作成することで、インタビューの方向性や方針のずれが生じることを防ぐことができる。

(1) リサーチ・クエスチョン

学校保健活動において保健室経営計画がどのような作用・効果をもたらしているのか、保健室経営計画の教職員への周知や計画内容、実践状況を通して知る。

(2) インタビューガイド

- ・保健室経営計画の作成について
- ・保健室経営計画の内容について
- ・保健室経営計画を教職員で共有状況について
- ・保健室経営計画の遂行について

5) 倫理的配慮

インタビュー実施にあたり、勤務校の学校長及び対象の養護教諭に研究の目的、方法、プライバシーの保護について文書と口頭で説明し、同意を得た。

6) 分析方法

インタビューで集取された音声データを文章化し、切片化を行う。

その後、各切片からプロパティとディメンションを抽出していく。それらを基にラベル名をつけ、カテゴリーにまとめていく(表1)。

カテゴリーを現象ごとに関連図を作成し、関連図を説明したストーリーラインを作る。今回は、4名のカテゴリー関連図を作成した後カテゴリー統合関連図を作成し、ストーリーラインを作成した。

2. 研究結果

1) 課題解決型の保健室経営計画作成に関する課題のカテゴリー統合関連図(図1)

2) ストーリーライン

もともと作成することは必要であると感じているものの、〈活用の難しさ〉や〈評価の困難さ〉といった作成後にある困難さや〈類似と感じる書類の存在〉や〈担当外の計画への関心の低さ〉などの作成自体とは別な事柄などが絡み合い、作成に対するモチベーションを下げる状況を生みだしている。

そのことを受け、〈養護教諭が達成できる目標設定〉〈スモールステップで行う保健室経営〉といった、養護教諭が自分の力量・学校の実態に合わせた無理なく達成できる目標を設定し、実践している。しかし、養護教諭と他の教諭との関わりの中で〈指導の困難さ〉や〈教科と学校保健との両立の困難さ〉、学校行事との関わりの中で〈思い通りに行かない経営目標〉といった、実践の困難さが生まれている。

また、学校保健に対する養護教諭と他の教諭との温度差があることで、経営計画の配布に対する疑問が生じ、未配布のことも多く、〈周知に対する課題〉も実践の困難さの要因となっている。さらに、実践が十分行っていない養護教諭については、保健室経営計画を作成し、実践しやすい状況を作る必要があるとも考えている。

こうした中、〈計画で整理できる活動内容〉とあるように、保健室経営計画を立てることで経営目標が明確となり、養護教諭自身が活動内容を整理し、実践につなげようとしている。さらに、実践の困難さや経営目標達成のために、他の教諭と打ち合わせをするなど、〈指導に対する共通理解〉をすることや学校歯科医のブラッシング指導などの〈専門家の指導〉を行い、周知の課題についても〈教育課程に組み込む〉〈説明と共に配布〉を行っている。

努力と工夫を積み重ね、様々な実践に取り組んで行くことで、《来年度に向けての意気込み》《達成できる経営目標》へと繋がり、経営目標作成に対する前向きな考え方が生まれる一方で、《実践の困難さ》がそのまま残り、自分事として捉えてもらえない状況下に、学校保健を教育活動全体で行うことの難しさも感じている。さらにそのことが、課題解決型の保健室経営計画作成への課題に再び繋がっている。

3. 考察

今回のインタビュー調査を通して、次のようなことが見えてきた。

第一に、課題解決型の保健室経営計画作成に対する課題として、類似する書類や担当外の計画に対する関心の

低さといった作成に直接関係していない事象と、活用や評価といった作成後の困難さが作成への意欲やモチベーションを下げる要因になっていること。第二に、具体的な実践や日常の活動に対する意識が強いことで、具体的な方策やそれらに対する周知や評価は積極的に行っているが、課題解決型の保健室経営計画自体については、計画全体の周知や評価は十分行えていない状況にあること。第三に、課題解決型の保健室経営計画を立案・実施している養護教諭がその効果や重要性について実感しにくい状況にあること。

また、インタビュー全体から、課題解決型の保健室経営計画と家庭・地域との関りのある発言が少なかったことから、課題解決型の保健室経営計画が学校のみならず家庭・地域への周知も難しいことが示唆された。

IV まとめ

児童・生徒を取り巻く社会環境は、日々めまぐるしく変化し、児童・生徒の健康課題も多種多様になってきている中、教育現場は常に多忙な日々を過ごしており、養護教諭のみや担任のみといった個人で対応するには限界がある。

「チームとしての学校」といわれるように教職員のみならず家庭・地域とも連携し、教育活動全体で児童・生徒の健康課題に対応していく必要があり、学校における学校保健活動の指針である課題解決型の保健室経営計画の作成意欲及び効果的な活用は重要である。

そこで、今回の研究で明らかになった課題に対して、①学校保健活動の指針となる課題解決型の保健室経営計画に対する養護教諭の必要性・有効性の再確認、②類似として挙げられる書類との差別化及び精選、③他の教職員との共通理解や周知をしやすくするための概要版や具体的な方策の例示、④具体的な方策に対する評価が経営目標の評価と異ならないように注意する、といった作成意欲やモチベーションを下げる要因についての対処と、具体的な活用方法・評価方法についての取組を行っていくことが必要である。

今後、上記した対処法や取組を実施していくことで、課題解決型の保健室経営計画の作成に対する課題の改善が行われ、保健室経営の充実及び、学校保健の充実に繋がっていくと考える。

引用文献

- 1) 日本養護教諭教育学会 (2012) 学校保健 養護教諭の専門領域に関する用語の解説集 (第二版) p. 17
- 2) 文部科学省 (2008) 学校保健の充実を図るための方策について 中央教育審議会答申：子どもの心身の

健康を守り、安全・安心を確保するために学校全体としての取組を進めるための方策について

- 3) 公益財団法人日本学校保健会 (2012) これからの学校保健に求められている養護教諭の役割「学校保健の課題とその対応—養護教諭の職務等に関する調査結果から—」 pp. 6~21
- 4) 公益財団法人日本学校保健会 (2015) 保健室経営計画「保健室経営計画作成の手引 平成26年度改訂」 pp. 7~10
- 5) 久米真理 (2017) マネジメントサイクルを活用した小学校保健室経営の改善 鳴門教育大学学校教育研究紀要第31号 pp. 66
- 6) 小柳康子 (2016) 保健室経営計画作成の基盤となる教育内容の構造～養護教諭の経営と計画に関する意識調査を通して～ 福岡大学研究部論集 B：社会科学編 Vol. 8 pp. 159-168
- 7) 小柳康子 (2019) 養護教諭の保健室経営計画作成を支援するガイドライン—コンテンツの活用可能性の検討 福岡大学研究部論集 B：社会科学編 Vol. 10 pp. 75-84
- 8) 齋木 真理子 (2012) 高校生の健康な発達のための効果的な校内連携による支援についての研究—保健室経営計画の活用を通して— 神奈川県立総合教育センター長期研究員研究報告 第10集 pp. 61~66
- 9) 采女智津江 (2011) 「全国養護教諭連絡協議会第16回研究協議会基調講演」
(http://www.kknews.co.jp/kenko/2011/0319_1a.html
2020年9月閲覧)
- 10) 公益財団法人日本学校保健会 (2012) 保健室経営に関する調査結果と課題「学校保健の課題とその対応—養護教諭の職務等に関する調査結果から—」 p. 75
- 11) 大野泰子 (2016) 養護実践の充実を導く保健室経営—実態調査と経営研修会から保健室経営を考える— 鈴鹿大学短期大学部紀要 36巻 pp. 37~47